



### 腸管出血性大腸菌感染症と菌株検査

埼玉県で 2019 年に検出され、衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は 123 株でした（下表）。123 株の血清型は、O157:H7 が 66 株(54%)、O26:H11 が 15 株(12%)の順で多く、O157:H7 の毒素型は VT2 が 43 株、VT1&2 が 23 株、O26:H11 の毒素型は VT1 が 14 株、VT2 が 1 株でした。Multiple-locus variable-number tandem repeat analysis (MLVA 法) による遺伝子型別では、O157:H7 の 66 株が 46 パターン、O26:H11 の 15 株が 9 パターンに分けられました。2 株以上の集積が見られたパターンでは、大部分が同じ家族からの分離株の集積でした。しかしながら、疫学的な関連性が認められない 6 事例で同一パターンを示す例もありました。感染原因・感染経路を探る上で、病原体から得られる情報も重要です。

表 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型 (2019年埼玉県衛生研究所確認分)

血清型	毒素型			計	割合
	VT1	VT2	VT1&2		
O157:H7	-	43	23	66	54%
O157:H -	-	3	6	9	7%
O26:H11	14	1	-	15	12%
O26:H -	6	-	-	6	5%
その他の血清型	12	6	7	25	20%
untypable(不明を含む)	1	1	-	2	2%
合計	33	54	36	123	100%

(数値部分の - : 0)

感染症発生動向調査では、2020 年第 24 週(6 月 8 日～14 日)の腸管出血性大腸菌感染症の届出は O157 が 3 件でした（下図）。梅雨入り後暑い日が続く、今後は同感染症の増加が懸念されるようです。同感染症診断の際は、菌株の提出等の感染症発生動向調査にご協力ください。

